

まいづる元気人 Vol.81

かまぼこを舞鶴のソウルフードに

近海で水揚げされた新鮮な魚の生すり身と高品質な原料を配合し、2段階に分けて蒸しあげることによって生まれるプリプリの食感。手間暇かかったかまぼこの最高級品「舞鶴かまぼこ」。映像や音響の業界からかまぼこ業界へと転身した異色の経歴を持つ中川さん。かまぼこにかける思いや新春対談にもつながった田中彩子さんとの対談にまつわる話を伺いました。



舞鶴かまぼこ協同組合
中川 貴之 さん

営業の仕事は初めて。写真や映像の加工・編集という強みを生かして「見やすく、面白く」を意識した営業を行った。時には取引先が自分の作った「かまぼこ」のできるまで「の動画を店頭で流してくれることもあったという。他にも、組合には原料の魚を工場でさばいたり、希少な原料を一括して買い付け、冷

仕事のモットーは「面白く」

テレビっ子で、バラエティ番組やアニメの効果音に興味を持ってメディア系の専門学校へ進学。卒業後は大阪の音楽スタジオで働いていた。両親のことが心配で舞鶴へ戻り、映像制作会社や工場などで働いた。そんなとき見かけたのが舞鶴かまぼこ協同組合の求人。母親から聞いて初めてかまぼこが名産品だと知った。「もしかして同じ世代も知らないんじゃないか？自分の経歴を生かせば広められるんじゃないか」と、かまぼこ業界に飛び込んだ。

かまぼこ業界の異端児

「失敗してもいいよ」と言われるが、世界で活躍する歌手の仕事、大手レコード会社とのやり取りに「絶対ミスれない」といつも以上に緊張したそう。また、オーストリアからの渡航費なんて払えるのか、スケジュールは合うのか？と不安は山積み。

「たぶん、計画案がまとまりましたので、市パブリック・コメント手続制度(市民意見提出制度)に基づき、市民の皆様から意見を募集します。【提出方法】様式は自由。住所、氏名、電話番号を記入し「舞鶴市文化財保存活用地域計画(案)に対する意見」と明記し、郵送か持参、ファクス、市ホームページ問い合わせフォームで文化振興課へ(左コードからアクセス可)。匿名、電話、口頭による意見は受け付けません。【募集期間】2月8日(月)まで

運と縁でつないだ大仕事

本業のほか、商工会議所青年部の40周年事業実行委員長も務める。これまでは講演会が多かったが、今年は「コロナ禍。委員長なんだから、例年になく特別なことがしたい。舞鶴出身の人を起用して動画を作れないか」。会議の中で、田中彩子さんの名前が挙がった。「そっちは同級生だ」と、だめ元で連絡を取ると「喜んで」とまさかの快諾。すぐに頭の中で映像の構成を組み上げていった。商工会議所青年部で企画をするときは挑戦することが重要という意味で

「失敗してもいいよ」と言われるが、世界で活躍する歌手の仕事、大手レコード会社とのやり取りに「絶対ミスれない」といつも以上に緊張したそう。また、オーストリアからの渡航費なんて払えるのか、スケジュールは合うのか？と不安は山積み。

かまぼこを親から子へ

今後の展望を聞くと「全国各地の名産かまぼこを含め練り物をもっと人気になってほしい。祖父母が贈答品に買い、親が晩酌に買って、子どもがつまみ食いをしておいしさを知る。そうやって親から子へ引き継がれていってほしい」とのこと。また「舞鶴かまぼこの所の面白い奴として覚えてもらい、広生塔としてかまぼこ人気を広めたいと話してくれた。

Information

くらしの情報

パブリック・コメント

市では、過疎化・少子化などによって文化財が継承できなくなるのを防ぎ、地域の文化財の保存・活用に地域社会全体で取り組み、まちづくりに生かしていくために「舞鶴市文化財保存活用地域計画」の作成を進めています。



このたび、計画案がまとまりましたので、市パブリック・コメント手続制度(市民意見提出制度)に基づき、市民の皆様から意見を募集します。【提出方法】様式は自由。住所、氏名、電話番号を記入し「舞鶴市文化財保存活用地域計画(案)に対する意見」と明記し、郵送か持参、ファクス、市ホームページ問い合わせフォームで文化振興課へ(左コードからアクセス可)。匿名、電話、口頭による意見は受け付けません。【募集期間】2月8日(月)まで

【案の公表場所】文化振興課、市政情報コーナー、西支所、加佐分室、中・東・西・南公民館、大浦・城南会館、東西図書館、市ホームページにも掲載。

【提出された意見の取り扱い】提出された意見などを考慮して最終案を作成。また、意見の概要と意見に対する市の考え方を整理し公表します(氏名などは公表しません)。

▼詳しくは、文化振興課(☎66・1009、FAX 62・9891)へ。



感染リスクが高まる「5つの場面」



いつもと違う、初めての冬。新型コロナウイルス感染症に注意を。マスク着用や手洗い、うがい、3密(密集・密接・密閉)の回避など、基本的な対策はもろろん、飲食時も会話の際はマスクを付ける「マスク会食」など、各自でできる新型コロナウイルス対策への協力をお願いします。また、湿度40%を目安に適度に保湿するなど意識しましょう。《舞鶴市新型コロナウイルス感染症対策本部》



コオニタビラコ(キク科)

本州・四国・九州の田に多く見られる越年草。根元から出る葉はロゼット状(※)に広がり、長さ4~10cmで羽状に分裂し先端は大きく、ほとんど無毛。茎は高さ10cm位でロゼットの中央から多数伸び、まばらに分枝する。早春、枝先に黄色の小頭花を付ける。頭花は舌状花のみで朝開き夕方には閉じる。名前の由来は、葉が田に張り付くように平たく広がることから。春の七草の「ホトケノザ」は本種とされる。田にまかれる除草剤の影響か、見掛けることが少なくなった。

【協力】瓜生勝朗/文化財保護審議会委員(植物分野)

※葉が地面に張り付くように放射状に並んだ状態

まいづる花図鑑

vol.169